

長野県新経済対策「暮らし・地域力向上プロジェクト」大綱導入機器

微量高感度分光分析システム

光を利用して微小工業異物（有機・無機物）の構造又は諸特性を、紫外、可視、赤外の幅広い波長域にわたって測定、分析することができます。

装置の概要

V-670
紫外可視近赤外分光光度計



MSV-370
顕微紫外可視近赤外分光光度計



FT/IR-6300+IRT-7000
フーリエ変換赤外分光光度計 +
マルチチャンネル赤外顕微鏡



【紫外・可視・近赤外分光部】

【微小物赤外イメージング分析部】

紫外

可視

近赤外

赤外

レーザー光

【顕微ラマン分光部】



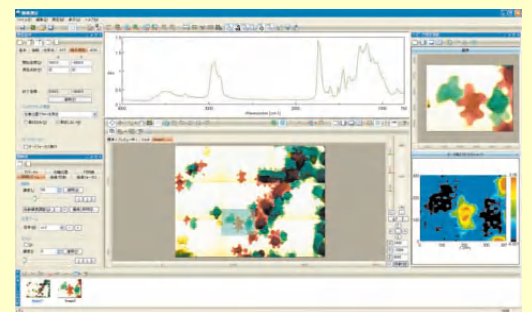
NRS-3100
レーザーラマン分光光度計

【分析部】

- 測定波長：紫外可視（190～2700nm【顕微：2000nm】）、赤外（15000～50cm⁻¹）、ラマン（50～8000cm⁻¹）
- 紫外～赤外、ラマンの全てでマッピング測定可能
- JIS-R3106 の日射透過率、反射率測定が可能

【前処理部】

- デジタルマイクロスコープ（1000倍、3D表示）観察
- 10μmの微小物操作機能（マイクロマニピュレータ）



顕微赤外分光 測定例（マッピングイメージ）

用途

- 【紫外可視近赤外分光】 カラーフィルタ・光学デバイス等特性評価、色彩計測
- 【赤外分光】 プラスチック種別判別、各種有機異物の同定、多層膜分布状態確認
- 【レーザーラマン分光】 DLC膜評価、カーボン材料構造評価、極微量異物分析